

令和4年度第1回市川市幼児教育振興審議会 会議録

- 1 開催日時 令和4年10月26日（水）午後1時00分から午後2時30分
- 2 場 所 市川市八幡1丁目1番1号
市川市役所第1庁舎5階第4委員会室
- 3 出席者（敬称略）
 - (1) 会 長 高尾 公矢
 - (2) 副会長 駒 久美子
 - (3) 委 員 石原 みさ子
吉田 英生
緑谷 一樹
松尾 裕美
川久保 葉子
宮下 朱由美
村上 律子
関根 純子
渡邊 眞理子
佐藤 明子
海老原 澄子
 - (4) 事務局 小倉 貴志（教育次長）
永田 治（生涯学習部長）
吉田 一弘（生涯学習部次長）
藤井 義康（学校教育部長）
奥田 淳（学校教育部次長）
佐原 達雄（学校教育部学校建設担当参事）
町田 茂幸（教育総務課長）
須志原 みゆき（教育総務課主幹）
岩瀬 絢子（教育総務課副主幹）
三河 崇邦（教育総務課副主幹）
富永 香羊子（指導課長）
木村 裕児（指導課主幹）
小谷 春晃（指導課副主幹）
川畑 理気（指導課副主幹）
大野 孝一（教育センター所長）
大津 幸夫（教育センター主幹）
久芳 小真紀（教育センター主幹）
秋本 賢一（こども政策部長）
杉山 育子（こども政策部次長）
宮崎 美穂（こども家庭支援課長）
井上 雄一（こども家庭支援課主幹）
若菜 克彦（こども施設入園課長）
東谷 盛弘（こども施設入園課主幹）

水野 智史（こども施設入園課副主幹）
高橋 昭彦（こども施設運営課長）
藤井 君代（こども施設運営課副参事）
中嶋 学（こども施設運営課主幹）
熊川 孝弘（こども施設運営課主幹）
長谷川 皇一（こども施設計画課長）
大塚 基明（こども施設計画課主幹）
富永 進也（こども施設計画課主幹）
高橋 やす子（発達支援課長）
大塚 晶子（発達支援課主幹）

4 議 題

- (1) 幼児教育推進に係る具体的な取組の状況について

5 提出資料

- (1) 次第/市川市幼児教育振興審議会委員名簿
(2) 資料1 令和4年度市川市幼児教育基本方針の具現化に向けた取組 重点項目
(3) 資料2 市川市幼児教育基本方針
(4) 資料3 市川市版アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム

6 会議録

【午後1時00分 開会】

○高尾会長

ただ今より、令和4年度第1回市川市幼児教育振興審議会を開催いたします。本日は審議会委員13名中、全員が出席されております。市川市幼児教育振興審議会条例第6条第2項の規定によりまして、委員の半数以上が出席しておりますので、本会議は成立いたします。審議に先立ちまして、市川市審議会等の会議の公開に関する指針第7条に基づきまして、議題に関わる会議を公開とするかどうかを決定いたします。事務局にお尋ねします。本日の議題に、同指針第6条に規定する非公開事由はございますか。

○町田教育総務課長

事務局でございます。本日の議題は市川市公文書公開条例等で、非公開とはされておられません。また、個人情報などの非公開情報も含まれておりませんことから、同指針第6条に規定する非公開事由はございません。以上でございます。

○高尾会長

それでは、本日の議題につきまして、非公開事由はないとのことですので、会議を公開するというところでよろしいでしょうか。お諮りいたします。

○委員全員

【異議なし】

○高尾会長

それでは、ご異議がないようですので、本議題に関わる会議を公開とすることと決しました。傍聴者がいらっしゃいましたら、入場をお願いいたします。

○町田教育総務課長

本日傍聴者はおりません。

○高尾会長

いらっしゃらないようですので、それでは、次第に従いまして会議を進行させていただきます。議題の1です。幼児教育推進に係る具体的な取組の状況について、事務局から説明をお願いいたします。

○富永指導課長

指導課長富永でございます。昨年度は、幼児教育基本方針の作成にあたり、この市川市幼児教育振興審議会でもご審議いただき、高尾会長をはじめ、駒副会長など、多数の委員の方々にご意見をいただき、市川市幼児教育基本方針を策定することができました。今年度は、市川市幼児教育基本方針の具現化に向けて、こども政策部と教育委員会の連携体制を構築し、幼児教育連絡会や作業部会の中で、協議をいたしまして、4つの重点項目を挙げました。恐れ入りますが、お手元の資料1「令和4年度市川市幼児教育基本方針の具現化に向けた取組重点項目」をご覧ください。重点項目は「1、研修の充実について」「2、アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの推進について」「3、ICT環境について」「4、障がいのある子どもなどへの支援について」の4つでございます。本日は、幼児教育基本方針の具現化に向けた取組といたしまして、4つの重点項目についてご説明いたします。以上でございます。

○高尾会長

ありがとうございました。ただ今の説明にありましたとおり、この後は4つの項目について、1つずつ事務局から説明を受けまして、委員の皆様方からご意見等をいただくという流れで進めていきたいと思っております。1つの項目について、大体15分を目途に進めていきたいと思っておりますのでよろしくをお願いいたします。それでは、まず1つ目の「研修の充実について」事務局から説明をお願いいたします。

○富永指導課長

指導課長富永でございます。まずはじめに、「研修の充実について」ご説明いたします。現在、市川市の各幼児教育を行う施設では、教育、保育の質の向上のために、国や県が主催する法定研修、市長部局や教育委員会等が主催する園外研修、各園で行っている園内研修がございます。これらの研修により、自らの専門性を高めていくことはもちろんのこと、公立及び私立の幼稚園と、公立及び私立の保育所が共通する研修をとおして、ともに学び合うことが課題となっております。この課題解決のために、各課が行っている研修を精査し、2つの共通研修を、年間の中で行っていくことが必要であると考えております。

1つ目は、アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム研修です。子どもの様々な資質・能力を育成するためには、幼児教育から義務教育といった発達段階を踏まえた繋がりの中で、体系的な学びをとおした学びと育ちの連続性が大切であり、幼保小が連携したアプローチカリキュラム・スタートカリキュラム研修を行っていきます。

2つ目は、特別支援研修です。近年、通常学級の中にも、発達障がい等の特別な支援を要する幼児が多数存在するため、幼稚園教諭、保育士、保育教諭の特別支援教育に対する専門性を高めていくことは必須となっております。多様性を尊重し、インクルーシブ教育システムの構築を目指し、すべての子どもたちが自分の生活をする、地域でともに学ぶことのできる、多様で柔軟な仕組みづくりを進めるなど、特別な教育的ニーズに応じた教育や保育を推進するため、特別支援研修を行っていきます。今後、この2つの共通研修を年間の中に明確に位置付け、市内の幼児教育を行う施設への参加を促していきます。以上でございます。

○高尾会長

それでは、今、研修の充実ということで、説明がありました。特にアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの推進に関する研修を強力的に実施していくということです。それから、もう1つは、特別支援への研修、これを充実させていくという話がありましたけれども、何かご意見、或いはご質問などがありましたら、お願いしたいと思います。各委員さんいかがでしょうか。川久保委員いかがでしょうか。

○川久保委員

南行徳幼稚園川久保です。おっしゃられたように、実際、私立幼稚園主催の研修に、公立幼稚園から各園1名の参加ですとか、逆に公立幼稚園主催の研修に呼びかけをさせていただいたりということ、現状行っているところです。ただ、ここ数年コロナのことがありますので、ちょっとそこがうまく回っていない、進められていない状況ではありますが、今年度はそういった研修も、各園1人という限定で行われ始めております。また、特別支援研修におきましても、教育センター主催の研修に自主的に参加する職員もおります。これから更に定期的に年間何回というところで位置付けが明確にされていくと、幼稚園側としても参加しやすいです。そして、職員の資質向上にも繋がっていくと思いますので、大変良い取組だと思っております。以上です。

○高尾会長

ありがとうございました。それでは、同じ幼稚園の私立から緑谷委員さんどうですか。

○緑谷委員

私立幼稚園協会の緑谷です。研修に関しては公立と私立幼稚園間の開放は行われておりますが、保育園と幼稚園間の研修の開放を進めてはどうかというお話をしたと思います。今日も今後の衛生管理研修案内をいただき、職員に周知をしたのですが、残念ながら、保育園向けで幼稚園には開放がされておりました。ただZoomでしたので、ぜひ幼稚園にも開放していただけると、いろいろな面で参考になるかと思いますが、現在、幼保間の開放具合はどういう感じになっているのでしょうか。

○高尾会長

事務局の方からお願いします。

○富永指導課長

指導課では幼稚園を担当していますので、保育園担当の担当課の方と連携をしながら、今後進めていきたいと考えております。

○高尾会長

よろしいですか。

○緑谷委員

はい。

○高尾会長

それでは私立保育園の村上委員さんいかがでしょうか。

○村上委員

あじさい保育園村上です。先ほど幼稚園の方からもありましたように、こども政策部の方からいただいている研修で、私立の方も参加をさせていただいたりしております。先日も逆に私立の方から申し込んで、今回初めて看護師交流会をやらせていただきまして本当に大変勉強になりました。今後とも継続して、定期的に行っていただけると良いかと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。あとは、やはり幼稚園、保育園の連携もそうですけれども、学校との連携がどうしても、コロナ禍で全くと言っていいほどなくなってしまい、アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム研修も結局はオンラインになってしまいました。近隣の小学校の教員や保育士、もしくは教諭で実際お話をさせていただくという交流があると、すごく勉強になると思っておりますので、そちらを考えていただければありがたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○高尾会長

事務局からお願いします。

○富永指導課長

ご意見ありがとうございます。実はそのような小さなブロックでしたらコロナ等の影響も受けないので、今後そのようなことができないか、現在担当課と検討させていただいております。ありがとうございます。

○高尾会長

それでは、市立保育園の渡邊委員さん、いかがでしょうか。

○渡邊委員

行徳保育園の渡邊と申します。よろしくお願い致します。1つ目に挙げられましたアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムについては、公立保育園の方でも、自分たちで勉強していこうということで進めています。今年度、近くの公立幼稚園と交流を持ちまして、5歳児の担任同士でどのようにカリキュラムを組み立てていくかとか、小学校との連携で悩んでいることはないかということをお話ししましょうということで、連携をとらせていただいております。そのような形で、現場で連携を取りつつ、指導課の方で、年間位置付けて検証していくことであれば、より一層学びが深まりますので、ありがたいなと思えました。また、特別支援に関しましても、気になるお子様たちが非常に多い中で、保育園のみで勉強して手立てを考えようということだけではなく、幼稚園、あと小学校とも連携して、小学校に行った時に、子どもたちが困らないような体制を作っていきたいと思っておりますので、こちらの方の研修も積極的に参加させていただきたいと思っております。ぜひ、よろしくお願い致します。

○高尾会長

それでは、小学校から、海老原委員さんいかがでしょうか。

○海老原委員

新井小学校の海老原です。小学校の方でも、入学してきた子どもたちの中に、やはり特別支援的なケアが必要な子たちが結構いて、今、1年生の担任の方はいろいろ苦労しているところです。幼稚園、保育園で特別支援教育について研修していただけるとすごく助かるなと思っております。それから、連携についてですけれども、新井小学校では、ブロックの中で、今、コロナ禍ではありましたが南行徳幼稚園さんと研修等で連携させていただいております。そうすると、幼稚園の様子

なども分かったりして、大変助かっておりますので、幼稚園と小学校との連携も、そのようにやっていけるといいと思うのですが、新井小でいうと、20園ぐらいの幼稚園、保育園から来ております。本当に保育園も小さいグループもたくさんありますので、なかなかそのすべてと連携をとっていくのは難しいなと考えているところです。ありがとうございます。

○高尾会長

今出ました意見は、要するに公立と私立の連携した研修ですね。それから、保育園と幼稚園の連携した研修、それから、全体としまして公立私立、或いは幼稚園、保育園を問わず、小学校との連携です。こういう連携した研修を明確な形で、年何回行うというような形で提示して取り組んでもらうと非常に良いのではないかというような意見が出ました。研修が重要なことは、もう言うまでもないことなので、それに対してどういう形で、どのように実行するかということ、明確に示した形で行っていくということが重要なのではないかということです。ほかにご意見がありましたら、自由に時間の中で意見を言っていただければありがたいと思いますがいかがでしょうか。石原委員さん。

○石原委員

アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム研修、特別支援研修ともに、非常に結構だと思います。質問ですが、1つは、これが今年度の重点項目、取組ということなので、令和4年度中に行われるのだろうと思いますが、大体、今いつ頃の開催で考えていらっしゃるのかということと、それから実際の講師を務める方がどのような方になることを想定されているのかお伺いします。

○高尾会長

事務局の方からお願いいたします。

○富永指導課長

開催時期につきましては、現在調整中で、今後検討していきたいと思っております。講師につきましては、現在のところ指導課に幼児教育担当がおりますので、そちらを考えております。今後は専門家等の研修も考えておりますが、今まだ検討の段階でございます。以上です。

○高尾会長

よろしいですか。

○石原委員

はい。

○高尾会長

ほかにご意見ありますか。どうぞ、緑谷委員さん。

○緑谷委員

緑谷です。アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムにつきましては、以前も質問させていただいたり、直接担当の方に伺ったりしたことがあるのですが、次年度より国で架け橋プログラムというものを、強力で推進するという方向性が打ち出されております。そちらとの整合性というか、すり合わせというのをどのように考えていらっしゃるかということと、今、石原委員への質問の回答で、次年度に向けてまだ未定ということだったのですが、具体的には何か年度内とか、

来年度当初であったりとか、市川市としての方針を出されるという予定もまだ未定なんでしょうか。

○高尾会長

事務局の方からお願いします。

○富永指導課長

アプローチカリキュラムについては、この後またご説明をしようかと思っておりますが、具体的にいつというのはまだ決定しておりません。来年度から始まっていくこととなりますので、一応構想としてはございます。この後またご説明させていただきます。

○高尾会長

よろしいですか。

○緑谷委員

はい。

○高尾会長

ほかにご意見がありましたらお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。それでは、ほかにご意見がないようですので、続けて、2つ目の「アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの推進について」、事務局から説明をお願いいたします。

○富永指導課長

指導課富永でございます。続いて、「アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの推進について」説明いたします。現在、幼児教育を行う施設と公立小学校との連携は、主に就学時、児童の情報等の小学校への引き継ぎが主となっております。これに加え、小学校生活科の体験学活動に園児を招待しての交流や、小学校入学を控えた時期の小学校の施設見学等の連携を行っております。今後、これらの連携を更に進めたものとして、幼児教育を行う施設での学びと小学校での学びを効果的に繋げていくことが課題となります。この課題解決のために、2点、具体的な方策を申し上げます。

1点目は、研修の工夫及び充実です。今年度、夏に、公立、私立を含め園と小学校の教員を集め、アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの研修を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、書面での開催になりました。次年度は、こちらにつきましては対面での実施を予定しております。実際には、研修形態を工夫いたします。先ほどご質問がありましたが、研修グループを、小学校を核とし、その小学校に就学する幼児教育を行う施設を集めたグループを作成し、研修を実施したいと考えております。この形態で研修を実施し、アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの実施、検討を行うことにより、地域性や地域の子どもの実態に即した教育活動が実践されやすくなると考えております。今後、文部科学省より、先ほどのご説明にもありました架け橋プログラムの中核をなす、年長から小学校1年生までの2年間を一体的にとらえたカリキュラムの開発が求められた時には、この研修会を発展、継続した研修会の中で検討されるものであると考えております。

2点目に、相互に教育活動を参観する場の設定です。現在、小学校教員が、保育の場を、また幼児教育を行う施設の教員が小学校教育の場を参観する機会は、多いとは言えません。今後、相互に教育活動を参観する機会を創出してまいりたい

と考えます。これにより、互いの教育実践の理解に繋がり、このことが、幼児教育の学びと小学校教育の学びの円滑な接続に繋がっていくものと考えております。以上でございます。

○高尾会長

ただ今説明がありましたとおり、2つのカリキュラム推進につきまして、研修を行っていく、園と小学校との連携を強化していく、そういう研修を行っていくということ、それから実際に参観をする機会を設けて研修をしていくとのことですが、それから非常に良いことだと思いますけれども、いかがでしょうか。まず、小学校から伺ってみたいと思います。海老原委員いかがでしょうか。

○海老原委員

新井小海老原です。今、お話がありました研修の形態の工夫ということで、小学校と地域の幼稚園、保育園と同じグループにして行うということは、とてもすてきなことだと思います。地域の子どもたちの、その地域性というか特性を、研修でお互いに話す中で理解できるということと、やはり同じ研修をするにしても、実際に現実感を持った研修になるのではなかないかと思うので、とても良いことだと思います。それから、相互に参加する機会をつくるということがありました、それもとても大事なことだと思います。今、新任3年目で異校種研修という、小学校だったら、要するに中学校とか幼稚園とかそういう違うところに研修に行くというのがあります。新井小学校の3年目は、南行徳幼稚園の方にお世話になって、研修させていただき、大変良い学びをさせていただいているところなので、これが皆さんに広がっていけばいいと思っております。ありがとうございます。

○高尾会長

それでは公立保育園、いかがでしょうか。渡邊委員さん。

○渡邊委員

行徳保育園の渡邊です。小学校を核とした、地域をもとにした交流、情報交換をしながらカリキュラムを作るということは、非常にありがたいです。卒園した子どもたちが小学校で過ごすことをイメージしながら、計画を立てたり、今後どうしていこうかと相談ができたりののは非常にありがたいことなので、ぜひともやっていきたいと思っております。また、相互に参観する機会を設けるということですが、公立の保育園では、小学校から研修という形で参観や1日保育を一緒にさせていただいていますが、その中で、幼児教育の現場や未就学児の様子を見る、感じるということが、とても刺激になりますという感想をいただいております。逆に保育園側からも、小学1年生がどのような生活をして、どのような成長しているのかということを感じることも非常に大事だと思います。相互に教育活動を参観する機会を積極的に作っていただきたいと思います。ありがとうございます。

○高尾会長

それでは村上委員さん、私立保育園から、いかがでしょうか。

○村上委員

あじさい保育園村上です。小学校を核とする研修を発していただけると、まずは参観から始めて、どのようなことをアプローチカリキュラムに逆に入れていくのかということが明確になるので、本当にすぐにでも始めていただけるとありがたいと、お話を聞いて思いました。以前は、職場体験として小学校の先生が来てくださることがあって情報交換等もできたのですが、小学校を見学する、1年生の

クラスを見せていただくことも、このコロナ禍の3年、全くできてないので、ぜひとも今年度中に実施していただけるとありがたいなと思います。よろしく願いいたします。

○高尾会長

それでは、川久保委員さん公立幼稚園の方から、いかがでしょうか。

○川久保委員

川久保です。今、いくつかの研修が挙がっていますが、コロナ禍でできなくなっている部分が多くありまして、実は以前からやっているものも、公立の中ではありませんでした。指導課主催の就学時前研修、アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム研修の1つですけれども、年長の担任が参加して小学校1年生の入学時期にはどういう様子かという学校の様子を知るといって研修があったりですとか、あとは、先ほども小学校学区のブロック単位で今後考えているというお話が出ておりましたが、公立ですので、実際もうすでにブロックの学校との交流がありまして、お互いの授業参観へ行ったり、来たりというところの活動は、今はできていないのですけれども、以前は進めていました。その中で、いつも課題に思っていることは、やはり園長や教頭がそこを理解するだけではなく、担任の先生同士がお互いの生活や、発達段階を知るといってところが最も重要になるのだらうなということを感じていますので、その内容、進め方、そしてお互いの授業参観をした後の話し合いの場等、なかなか学校の先生方も忙しいのですが、そういった具体的な内容が充実していくと良いかと思います。そして、そこに保育園と私立園がどのように参加できるか、多分すべては難しいと思いますけれども、少しずつでも現場単位で広がっていくと子どもたちにとっていいことかなと、常を感じているところです。以上です。

○高尾会長

それでは、緑谷委員さんいかがでしょうか。

○緑谷委員

はい。幼保小の教員の相互訪問は、大変貴重な機会だと思いますので、ぜひ推進されるといいと感じております。ただ、現状では、2月ごろに実施される卒園児の情報交換会などを各小学校としますが、なかなか実際行く時間がないので、電話やZoomのような形がほとんどです。お話していると、「すみません。忙しくて。」と、もう本当に小学校の先生は忙しくて大変だなといつも思うのですけれども、実際、参観はさすがにZoomというわけにはいかないと思うので、そうするとやはり役所でしっかりとその時間が作られるような職場の改善というのをまずしてから、ぜひ、幼保小の相互参加の機会が、しっかり作られることを期待しております。

○高尾会長

それでは、保育園、幼稚園、小学校の方から意見をいただきましたけれども、保護者の立場として、小学校に入っていくときに、こういうことがやはり気がかりだとか、心配だとか、こういうことはどうなのだというようなことがありましたら、意見をいただきたいと思います。松尾委員さん、いかがでしょうか。

○松尾委員

松尾です。幼稚園年長さんの今の保護者の方々は、きっと小学校就学に向けて、どんなことを家でやっておけばいいのかなとか、学校でちゃんと1人でできるかな

とか、いろいろ心配な保護者の方も多いと思うのですが、就学時健診などで、小学校の先生からお話を伺ったりすることと同時に、小学校の様子を見たことがない保護者もいるので、ビデオで撮ったりして、その説明会の時に、このような流れで取り組んでいますという姿が見えるのは、ありがたいのではないかと思います。ここ最近、Zoomなどもあるので、できたらいいなと思いました。以上です。

○高尾会長

それでは、公立幼稚園の保護者の宮下さん、いかがでしょうか。

○宮下委員

宮下です。コロナ禍で、学校に行ける機会も減ってきてしまっているのですが、以前のように、学校見学などを子どもたちがもう少しできると、行きやすいのかと思います。学校の行事に下の子を連れて行くと、小さい時から行っているとその場所に慣れるので、やはり回数を重ねて学校に行けると、雰囲気が一番体験できて、慣れることができると思います。

○高尾会長

そうですね。事前に幼稚園の年長さん、保育園の年長さんで、実際に小学校見学に行っていれば、より入っていきやすい感じは当然しますね。それでは、私立保育園の保護者の関根委員さん、いかがでしょうか。

○関根委員

関根です。子どもが今4歳の年中児なのですけれども、ここの場でお話がされているような連携プログラムとか、階段がない状態で小学校に接続するといった課題があるということ自体、保護者として認識していませんでした。こういう場に出させていただいているので、そういう課題が多く出ているということは認識するのですが、そういう情報ですとか、実際のポイントみたいなものを、年長さんになってからではなくて、早め早めに知る機会があると、保護者としても、園とご相談したり、家庭の中で取り組んだりということがやりやすいのではなかと感じました。

○高尾会長

そうですね。このようなカリキュラムが用意されているわけで、保護者の方に早くそういう情報をきちんと流していくことは、やはり重要ですね。前回でしたか、校長先生が委員でいらっしゃった時、何を幼稚園、保育園でまずやってきて欲しいかと伺った時に、とにかく箸の持ち方をきちんとやってきてほしいと非常に強く言われていたのが印象に残っています。小学校に入って箸の持ち方から指導していると、なかなかその教科内容に入っていけないので、そういうことはもう、幼稚園、保育園の時にやってきて欲しいというようなことをおっしゃっていました。1例ですけれども、このようなことを保護者の方に情報として流して、最低限やってきて欲しいことをやってきてもらうというようなことが、やはり重要だと思います。それでは、佐藤委員さん、公立保育園の保護者の立場として、いかがでしょうか。

○佐藤委員

佐藤です。やはり、先ほどからお話がありますように、小学校を核とした幼稚園、保育園、小学校の教員の先生方の相互参観参加というのは、保護者の立場からも非常に期待するところです。やはり、子どもが今実際に小学校を見学する機

会が非常に少ないということで、先生方が実際に見ていただいた内容を普段身近に感じている先生方の言葉で子どもたちに伝えていただくということは、やはり子どもたちにとってすごく不安を解消できることだと思いますし、まだ小学校はどんなところなのだろうという未知の部分が多いところで、先生方がこういったこともあったよとか、すごく楽しみになるようなことを伝えていただくと、子どもたちも小学校に対しての不安が少しでも取り除かれて、前向きに小学校入学に向けて歩めると思いますので、保護者の立場からもすごく期待したいと思います。以上です。

○高尾会長

それでは、ほかにご質問、或いはご意見がありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。駒委員さん、何かありますか。

○駒副会長

駒です。先ほど小学校の海老原委員からお話があったときに、小学校の新任3年目の異校種研修というものがあるということを知って、このシステムはすごくいいなと思いました。結局、教員の相互参観と言っても、緑谷委員もおっしゃっていたように、なかなか時間的に難しく、自分の業務の合間に行って見てくるということは、難しい状況だと思います。しかし、研修として外に出していただくととなると、ちゃんと時間が確保されて、その中でじっくりお互いに幼児教育を知り、そして小学校教育を知ることができるようになると思うので、小学校と幼稚園とか保育園とかのそれぞれの先生方の努力で行うだけではなくて、やはり行政の立場から、そういった研修システムを作り上げていただいて、それぞれが相互に参観できるようなシステムができていくといいなと思いました。それから、小学校に行くことに対して幼児教育の立場から見ると不安になることもたくさんあると思うのですけれども、幼児教育がすべての教育の基礎を作っているわけです。3つの柱の中でも、知識及び技能の基礎だし、思考力・判断力・表現力等の基礎ということで、基礎を作っているということですから、それをもとにして小学校教育に進んでいくということを考えていくと、そんなに幼稚園から小学校とか、保育園から小学校に行くことを不安に思うというよりは、幼児教育はこのようなことを取り組んでいますということ、保護者の方にきちんと理解をしていただいて、それが小学校の教育に繋がっていくということ、幼児教育の方で、保護者の方々に伝えていくことも必要かと思いました。

○高尾会長

よろしいですか。ほかにご意見はありますか。今、この部分はまとめていただいたような感じですので、ほかにご意見がありましたらお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。それでは、今、2番目を説明していただいて、意見をいただきましたので、次に、3つ目の「ICT環境について」事務局から説明をお願いいたします。

○高橋こども施設運営課長

こども施設運営課の高橋と申します。ご説明させていただきます。資料1の中で右から2つ目のICT環境というところをご覧くださいと思います。現在の課題といたしまして、主に公立の園になってしまうのですが、園と園、また園と家庭を繋ぐオンライン会議システムが、まだ整備が十分でないというところがあります。このオンライン会議システムについては主にZoomなのですが、市においてはこちらについては、庁内の共有の機械を使って、現在の活用をさせていただいているところであり、また、特定の条件における外部のメールの機能がないと

いうところもありまして、外部とのICTでの連携が、まだまだ不十分であるというような課題もございます。今までの会議の質疑の中でも出てまいりましたが、ICT環境の整備によって期待される効果といたしましては、アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムの推進、また、相互参観への活用の可能性の拡大です。また、情報の共有、そして、研修などが各施設においてタイムリーに、またスピーディーに共有していくことが可能になっていくということで考えております。今後の取組の方向性として、このような会議システムの導入について、こちらについては要望と書いてあるのですが、私どもで教育委員会も交えた形で、システムをこれから考えてまいりたいと考えているところでございます。説明につきましては、以上でございます。

○高尾会長

それでは、ただ今ICT環境につきまして、説明がありましたけれども、いかがでしょうか。緑谷委員さん、私立はいかがでしょう。

○緑谷委員

こちらについては、どのようにお話ししてよいか難しいところなのですが、コロナ禍もあって強制的に進めないといけないようなところもあり、大分進んでいるのだと思います。ただ、個別に園と保護者であったり、園と役所であったりという全体的な仕組みというのは、セキュリティの問題もあって構築されていないというのが現状だと思いますが、今後ますます発展するといいなと考えております。ただ、個別の立場としては、他市と比べ、市川市は積極的な取組をされていると思っていますが、今後ますます進むといいなと感じております。以上でございます。

○高尾会長

私立幼稚園の方としては、園と家庭とは繋がっているのですか。

○緑谷委員

それは各園それぞれなのですけれども、私の園の場合には繋がっています。最近はどうでもないですけど、やはりコロナ禍で急にパッと1週間ぐらいみんな登園できないといった状況が、過去2年間ありえたので、強制的にというか、繋いでしまいました。

○高尾会長

私立の場合には、その個々によって違うわけですか。

○緑谷委員

それは、やはりお金もかかるので、運営者の考え次第でいろいろですね。そういう方面がお好きな方は、充実させているというところもありますし、ちょっと難しい方はなかなか取り組みづらいというところもあります。

○高尾会長

大まかで、私立幼稚園のどれぐらいで環境が設定されているかというのは、わかりますか。何%ぐらいかというのは。

○緑谷委員

そうですね。どの程度までというところが難しいですけども、いわゆる明日急にお休みだから、オンライン保育的に9時から11時までは、ライブ配信をするか

ら見てくださいというような発信がパッとできる園といいますと、そうですね、数園は対応可能と思います。

○高尾会長

ということは、まだ進んでないということでしょうか。

○緑谷委員

なかなか。Wi-Fiだけでも園の敷地全部というのはやはり大変なので、職員数だけというところがほとんどです。でもそうすると、なかなか難しいので。私の園は、私がもともとICT関係を好きだったこともあって、進めてきたというところではあります。

○高尾会長

私立の保育園はいかがですか。

○村上委員

あじさい保育園村上です。やはり、園と保護者というのはなかなか難しいところがあります。金銭的な面もありますし、あとはその技術的な面とかセキュリティの面もあるので、なかなか保護者等の方にライブ配信は、多分私どもの協会も39園ありますが、ライブ配信できるところは数少ないのではないかと思います。私の園で言わせていただきますと、動画配信の方は積極的にやらせてはいただいております。園と園というところ、本部が長崎になりますので、出張がなくなったのは本当のコロナのおかげだと思っているところがあります。

○高尾会長

公立が整ってないのですかね。公立幼稚園はいかがですか。

○川久保委員

公立幼稚園は、まだ環境的に整っていない部分で、そこは今お話いただいたように、要望としてあげている状況です。保護者との関わりについては、やはりその環境が整えば、動画ですとかやりやすいと思いますが、現状としては連絡の手段としては、急な連絡等は一斉メールで連絡を取れるような状況です。

○高尾会長

そうしますと、渡邊委員さんの方も同じ状況でしょうか。

○渡邊委員

はい。同じ状況です。

○高尾会長

それでは、公立が全体として遅れているということですかね。保護者の立場として、どうでしょうか。情報が園から発信されるとか、或いは、保護者の方から園へ伝えるとかということで、ICTの環境が整えば、かなり便利になるなど、そういうことは考えられますか。いかがでしょうか。佐藤委員さんいかがですか。

○佐藤委員

佐藤です。コロナということもありまして、実際に園に行つての参観の機会がほぼ全くなく、保護者の間でも園内の様子をもっと見られたらという声がたくさん上がっているのでも、ライブ配信まではいなくても、動画だけでも見せていた

だけると子どもたちが普段こういう状況なのかというのを保護者が見られるので大変ありがたいです。以上です。

○高尾会長

関根委員さんいかがですか。

○関根委員

先ほど村上委員がおっしゃっていた、あじさい保育園なのですけれども、動画が定期的にいろいろなイベントごとに配信されたりして、自然な様子を見ることができるので、とてもありがたく思っています。ICTの導入や活用については、園の置かれている状況や方針によって使い方がいろいろなのだと思うので、このように活用していますという、保育園や幼稚園の活用事例などを積極的に共有していくことで、その園なりの特徴を生かした使い方というのが促進されるのではないかという気がしました。

○高尾会長

それでは、宮下委員さんいかがですか。

○宮下委員

宮下です。普段の園の様子は、結構、園長先生が写真を貼り出してくれているので、雰囲気は伝わってきます。長く休園になってしまうと、やはりオンラインがあった方がいいのかなと思う反面、今の子どもたちは、どうしてもそういうスマホだったり、テレビだったりを見過ぎなので、私としては、そこまでやらなくてもいいかなと思います。

○高尾会長

松尾委員さんいかがでしょうか。

○松尾委員

松尾です。今の時代に、インスタグラムなどで、私立の幼稚園や保育園、学校は、運動会など、やはりそういう見せていただける機会がたくさんあります。いろいろなアイデアがパッとわかったりして、先生方の中でも活用されているのではないかという印象を受けるぐらい公開されているなと思います。公立はなかなか難しいかと思うのですけれども、中学校の卒業式を、保護者1人しか出られなかったのも、期間限定のパスワード制で配信というのを、私の子どもの中学校が昨年卒の卒業式でやりましたので、そういうシステムを利用されると、公立の幼稚園や保育園でもできるのかなと、今お話を聞いていて思い出しました。以上です。

○高尾会長

ほかにご意見ありませんでしょうか。特に、今の話を聞きますと、私立は保育園も幼稚園も個々によって差があるというような話でした。それから、全体として公立がやはり進んでいないということで、環境は整っていないということが明らかになったと思います。石原委員さんいかがですか。

○石原委員

皆さんの声を伺いまして、やはり園によっての経済状況ですとか、マンパワーですとか、そういうことによってもやれたりやれなかったりしているという状況ということですので、これを進める上では、まずはICTの環境を、どの園も同じよ

うに得られるような、財政的な支援も必要なのではないかと思いました。

○高尾会長

財政的な支援が必要なのですね。

○石原委員

そうですね。財政的な支援と、またそういった配信や配信を受けるというようなことにあまり詳しくない園に関しては、専門知識や経験のある方、或いは何か指導ができる方を教育委員会の方が派遣して、進めてもらうというようなサポートが必要なのではないかと感じました。

○高尾会長

そうですね。吉田委員、健康チェックといったことも含めて、ICTの環境が整っていれば、有効に働くというようなことはありますか。

○吉田委員

市川市医師会の吉田です。ずっとコロナ禍だったので、各園の情報を表に出してよいかはちょっと難しいと思うのですが、コロナの流行状況ですとか、これからだインフルエンザの流行状況を個別の園で出すのは難しいと思いますけれど、市川市内のエリアで、このエリアでどんな病気が流行っているとか、例えばそういう情報を、ICTを介して集約できれば皆さんの役に立つのではないかと思います。ライブ配信とかそういう話ではないのですけれども、そういう方向への活用と、個別の園の情報を出すのは無理だと思うのですけれども、大体エリアで、この辺でどういうものが流行っているということを集約できるようなシステムがあればいいかなとは思っております。

○高尾会長

ということで、いわゆる環境を整備していくということが非常に重要なことであると、皆さん方のご意見を聞いてわかったということです。小学校はどうですか。小学校と幼稚園、保育園とのオンラインの会議などが、もしできるということであれば、非常に良いのではないかと思いますけれど、その点はいかがでしょう。

○海老原委員

海老原です。それは、できたらとても良いと思います。就学前の2月ぐらいにお電話などで情報交換させていただいていますけれども、その時に、オンラインを使って情報交換ができれば、お子さんの様子を見せていただいたり、実際にその担任の先生と直にお話したりできれば、より状況がよくわかると思います。自校の場合は20園を本当に1軒1軒電話で繋いで、1人1人お話を聞いているような状況です。やはり、そこはすごく大事な作業なので、そこでオンラインが使えたらとてもいいなと思います。

○高尾会長

ということで、石原委員さん、ぜひ、情報環境を整えるということが重要なのだと思います。

○石原委員

文部科学省の報道の発表によりますと、来年度の当初予算で、子どもの相談をするのに、対面ですがオンラインで子どもの様子を見ながらの保護者からの相談

を受け付けるというシステムを行う方向で、今、文部科学省が予算要求をしているところです。ですので、そういったことが国会でとおりますと、来年度当初なので、令和5年度から、それが各県に通達されて各市にも下りてくると思います。ぜひ、そういった国の補助金、そういうものを有効に活用していただいて、市川市でも充実させていければいいのではないかと思います。

○高尾会長

それではほかにご意見ありますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、4つ目の議題にいきたいと思います。「障がいのある子どもなどへの支援について」です。事務局から説明をお願いいたします。

○大野教育センター所長

教育センター所長でございます。障がいのある子どもへの支援の取組の1つであります児童発達支援システムについてお話をさせていただきます。このシステムは、令和元年から3年度までに進められていました特別な支援を必要とする子どもへの、就学前から学齢期、社会参加まで、切れ目のない支援体制構築事業の柱の1つとして進められました。発達支援課での就学前のお子さん、家族の相談、教育センターでの教育相談、就学相談、教育支援委員会審議資料等の、子どもの情報や、家族の状況、相談のケースについて、相談の結果や、検査記録等を関係者が閲覧することで、保護者や幼児・児童・生徒への切れ目のない支援や、具体的な手立てを相談、支援する際に生かしていく情報管理システムであります。発達センターでの過去の相談の状況や検査結果など、児童発達支援システムに入力され、教育センター相談室での相談の際閲覧ができ、情報共有ができます。そして、支援の方法を検討していきます。ただし、情報は令和2年度からの入力情報ですので、これから情報が蓄積されていく状況です。それ以前は、紙媒体で資料が残されていますので、現在は、紙による情報と電子での情報を併用して活用している状況です。紙媒体の個人情報としては、これまで、発達支援課の方から配布されていますライフサポートファイル、それから、学校教育部からのスマイルプランに記載されたものを情報として活用しておりますが、2種類の情報がありますので、今後、双方を一本化し適切に引き継いでいくことが重要な課題となっております。また、従来の業務に加えて、システムへの入力が必要となりますので、入力する人員の確保なども必要となっております。今後、福祉部等との情報の共有、学校でも情報が一覧できるよう環境の整備まで進むことが必要であると考えます。保護者の同意のもと、必要な場所に必要な情報が得られ、それを事前に把握し、適切な支援や援助の方法を検討できる相談支援体制の充実を図ることが望まれます。以上でございます。

○高尾会長

それでは今、特別な支援の必要な子どもさんたちへの支援ということについて説明がありましたけれども、いかがでしょうか。吉田委員。

○吉田委員

医師会の吉田です。最近いわゆる放課後デイが急速に増えていまして、発達障がいのある子等のデイケアを大分やられているところが増えていきます。半分質問のような感じなのですが、今後そういった施設を保育園などの園にプラスして、放課後デイを巻き込んで連携していくような動きは考えてらっしゃるのでしょうか。以上です。

○高尾会長

事務局の方でお願いします。

○高橋発達支援課長

発達支援課です。放課後デイは小学生以上の方、小学校に入ってから高校卒業するまでの方が通うところになりますけれども、市では行っておらず、民間が主な事業所で行っているところになります。ただ、こちらのシステムに関して、今、まだ市内のみになっておりますので、今後、民間を巻き込んでということは、今後の課題になるかと思っております。以上でございます。

○高尾会長

吉田委員、よろしいですか。

○吉田委員

はい。

○高尾会長

ほかにご質問、ご意見がありましたらお願いしたいと思っておりますけれども、緑谷委員さんいかがでしょうか。

○緑谷委員

緑谷です。配慮の必要なお子さんへの支援は年々増加をしていると、もう10年ぐらい前から言っているような気がするのですが、最近感じることでして、配慮の必要なお子さんには、当然保護者の方がいらして、保護者への配慮も必要なケースというのがどんどん増えてきているというのを、感触として思っております。その際に、市と連携をしたいと思ったときに、教育の部門で連携をするべきなのか福祉の部門で連携をするべきなのかという悩みや迷いが生じることがあります。もちろん両方と連携を取りながら、保護者なり、お子さんへの対応ということにはなっていくと思うのですが、市として、そうした対応に事業者が困った場合の第一次窓口は、例えば幼稚園の場合でしたら、どちらになるのでしょうか。

○高尾会長

事務局お願いします。

○高橋発達支援課長

発達支援課です。今のところ、すみ分けとしては小学校3年生までは発達支援課でということになっておりますので、幼稚園のお子さんの場合だと発達支援課にご連絡いただくことになるかと思っております。

○緑谷委員

質問がわかりづらくて申し訳ありません。保護者支援の場合にはどちらを第一窓口として相談をするとよろしいでしょうか。

○高橋発達支援課長

保護者の方も同様で、発達支援課にご相談していただければと思います。

○緑谷委員

わかりました。ありがとうございます。こちらは協会内でも話が出る機会が多いので、共有をしたいと思っております。今ちょうど、幼稚園の募集時期ですので、お子さんの就園にあたってというところの問い合わせもあるので、そうする

と今度は、その支援以外、入園となると、こども施設入園課さんにもお話をというような感じになってくるかと思うのですけれども、その場合でもまずは支援課さんにご相談をして、支援課さんを通じてこども施設入園さんというような流れのイメージでよろしいのでしょうか。

○高尾会長
事務局どうぞ。

○若菜こども施設入園課長
こども施設入園課でございます。今お話がございましたが、手前どもで幼稚園の申し込みとか、入園をしたいというお話を伺う中で、発達に課題がある等々の情報いただいた場合には、1度、発達支援課の方にお話をするようにということをお勧めするなど、そういった形でのサポートはさせていただいているところでございます。以上です。

○高尾会長
よろしいですか。どうぞ。

○緑谷委員
申し訳ありません。もう1つですが、スマイルプランについてです。大分前から同じことばかり言って申し訳ないのですが、現状、保護者を通じて施設で作った書類を市の方という形になっておりまして、現場の先生方とお話ししても、なかなか実効性のある資料が作りづらいのではないかと感じております。こちらのあり方も、ぜひ、機会があれば、より実効性のある、特に小学1年生の先生が見てぱっと役に立つようなものであることが私たちにとっても望ましいので、ご検証いただければと思っております。以上でございます。

○高尾会長
今のご意見は、要はその資料の作り方、フォームの問題でしょうか。

○緑谷委員
そうですね。スマイルプランの目的は、担任をされた小学校の1年生の先生が、よりそのお子さんのことを早く理解をしてお子様の発達に切れ目がなく、伸びやかであるようにというのが最終目標だと思うので、その目標が達成されるような方法をより検証されていくと良いのではないかと感じております。

○高尾会長
では、どうすべきだと思いますか。

○緑谷委員
そうですね。それは、教育委員会さんに検討していただけてお示しいただければ、またそれに従ってやっていくと思います。

○高尾会長
こういうふうに作ればいいのではないかと、小学校に行って役に立つのではないですかということをむしろ提案していくことが重要です。

○緑谷委員
そうですね。

○高尾会長

この場でなくても良いと思いますが。

○緑谷委員

そうですね。個別に常々お話しする機会があれば、取り組みたいと思います。

○高尾会長

では、川久保委員さんいかがでしょうか。公立の立場から。

○川久保委員

川久保です。スマイルプランについてお話させていただくと、一応作成にあたっては保護者の方とともに面談をしながら作成するもので、特に保護者の方が、どの辺を学校に伝えて欲しいのか、どの辺がそのお子さんの困り具合なのかというところを、保護者と園側でともに理解しながら作成していくものだと思っております。今年度、年度当初にお知らせがありまして、おそらくそのスマイルプランの引き継ぎにおいても、また更に改革されていると思います。そして、毎年小学校1年生に引き継ぐだけではなく、毎年それをもとに、各学年の個人面談などでも、特別支援コーディネーターさんがともに入りながら、使われているものだと私どもは思っていますので、公立としてはそれをもとに、有効的に使われ、こちらとしてもより具体的に作成しているつもりです。

○高尾会長

私立の保育園はいかがですか。

○村上委員

あじさい保育園村上です。スマイルプランに関しては、やはり保護者からの要望というところから始まるので、保護者様の意見を聞きながらというところがあります。逆に言ってこられない保護者が、やはり保育園側や幼稚園側からしては難しいので、これは私からの提案なのですけれども、長崎に法人がありまして、大村市というところでは、4歳児全員に発達に関わるアンケートを一斉に行いまして、保護者が全員書いて、園の担任がまた全部書いて、それをもとに、小児科医が判断をして相談をするというシステムができております。市川市の規模が大きいので、なかなか難しいとは思いますが、アンケートの実施ぐらいは、実は荒川区もやっているというお話を聞いたので、アンケートを市の方から、全4歳児に向けてやっていただけると、こちらからも切り出しやすいし、そのようなものを作っていただけると、4歳は就学までに2年あるので、その間に連携もしやすくなるのかなという思いがありまして、そのようなことを発達支援課さん中心に考えていただけるとありがたいと思います。また、ライフサポートファイルに関しては、私もいただいた時にとっても良いものだと思ひまして、それ以降で2、3年前になると思うのですが、課長さんの方から、私立保育園の方には、全園に配布していただけたので、とてもありがたかったです。ただし、活用の方で、あまりそれを使ってらっしゃるという声がなく、特に重い障がいをお持ちだったりすると、すごくよくできている資料なので、あれを継続して使っていただけると本当にいいなと思いますので、活用方法を何か検討していただけると良いかと思いました。

○高尾会長

学校の側から、海老原先生ご意見がありますでしょうか。

○海老原委員

新井小海老原です。スマイルプランですけれども、大変活用しています。確かに保護者の方の要望で作られているものですが、ですから小学校へ来た時に持ってきて、この子はそんなに必要ないのだけれど、きっと保護者の方が不安に思っただろうというようにもわかりますし、本当に必要感がある子もいると思います。スマイルプランを出していただくと、4月5月中に、個別に保護者の方と先に担任と面談をして、今後どうしていくか指導計画を立てたり、お話をそこで直に聞くことができたりしますので、より早く保護者とその子を理解するための機会を得られるということではいいと思いますし、先ほど幼稚園さんからお話ありましたが、毎年必ず見直しをしていますので、担任が変わった時点で、早い時点でお話をし、その子に合った指導を考えていくことができるので、随分学校の中では定着してきたなという感じがしています。

○高尾会長

ほかにご意見ありますでしょうか。よろしいでしょうか。保護者の立場から、何かありますでしょうか。この障がいのある子どもさんへの支援ということで、よろしいでしょうか。はい、どうぞ、石原委員さん。

○石原委員

質問です。3点ございます。まず、子ども発達センターが大洲にございます。さらに、自分の子どもは何か少し障がいがあるのではないかと気にした保護者の方が、最初に相談する窓口になっているかと思いますが、この子ども発達センターは、初めてお電話をいただいて、次に対面での面会の予約をしますと思いますけれども、現状では、面会までどれぐらいお待たせしているのか伺いたいと思います。それから、2つ目として、保育園、幼稚園、公立私立それぞれに巡回相談を行っていると思いますが、1年に何回行っているとか、そういった頻度について教えてください。それから、3つ目として、先ほど大野教育センター所長より、ライフサポートファイルとスマイルプランは、今、2種類あるので一本化していく方向だというご説明がありました。この一本化していく上での課題があれば、教えていただきたいと思います。また、いつ頃一本化しようと考えていらっしゃるのかもあわせてお答えをお願いします。以上です。

○高尾会長

それでは、事務局の方から3点お願いします。まず、電話を受けてどれくらい待つのか。それから、2番目は、巡回相談の頻度はどれぐらいなのか。それから、一本化の時期ですね。この3点お願いいたします。

○高橋発達支援課長

発達支援課です。まず、お電話から初回面談までの待機日数ですけれども、8月現在で大体15日ぐらいお待ちいただいております。2つ目の巡回相談の頻度ですけれども、各園年間2回までとお願いしております。3つ目の、ライフサポートファイルとスマイルプランの一本化についてですけれども、ライフサポートファイルとスマイルプランは、もともと目的が違いますので、ライフサポートファイルは、そういうスマイルプランなどの資料を挟み込むファイルになりますので、一本化というのは、また違うことになるのではないかと思います。ただ、今、紙ベースなものですので、その辺りについてもう少し電子化できないかとか、その辺りの検討は今後してまいります。以上でございます。

○高尾会長

はい、どうぞ。

○石原委員

確認ですけれども、まず、年間2回までの巡回ということですが、これは幼稚園も公立も私立も関係なく、みんな年2回と考えてよろしいのでしょうか。それから、ライフサポートファイルとスマイルプランについてですけれども、一本化ということではないというようなお話だったのですが、一本化というのはどういう意味でおっしゃったのか、もう一度ご説明をお願いします。

○高尾会長

事務局の方からお願いいたします。

○高橋発達支援課長

発達支援課です。巡回については申し訳ありません、今のところ私立保育園について行っております。他の公立ですとか幼稚園については、今後の検討課題となっております。ライフサポートファイルとスマイルプランの一本化というのは、ライフサポートファイルの中に、スマイルプランを挟み込むということが、一本化ということです。申し訳ありませんでした。

○高尾会長

先ほどの一本化というのは、いわゆる紙ベースとインターネットファイルといったものを統合させるということなのですか。

○石原委員

すみません。もう一度確認なのですが、ライフサポートファイルとスマイルプランは、2種類が今後も存在していくと。そして、スマイルプランでの情報がライフサポートファイルにも入っていくという、理解でいいですか。それとも、その紙媒体を電子化するという一本化なのでしょうか。

○大野教育センター所長

教育センター所長でございます。一本化については、現在あるライフサポートファイルにそのスマイルプランを挟み込む形での保管にするか、もしくは、今後、各課で集まって会議を行っていますので、その中で、もし例えば、就学前から社会に出るまでの間のものが一括してより良い資料ができるのであれば、そちらも一本化として検討していきたいと考えております。ただ、現状では、今のところは、まだ話が始まったばかりで全然進んでいけませんので、当面はそのまま挟み込む形でも良いので、そうやって保管できて、一括して子どもたちの状況を見ていければと考えております。

○高尾会長

よろしいですか。

○石原委員

結構です。

○高尾会長

ほかにご質問がありましたらお願いしたいと思います。

それでは、時間の関係もありますので、4つの項目についてご意見ご質問を伺い

ました。全体をとおしまして、もし事務局から補足がありましたらお願いしたいのと、それから、委員の皆様方から再度質問したいということがありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。事務局の方はよろしいですか。委員の皆様方よろしいですか。

それでは、そのほかについて何かありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。はい、どうぞ緑谷委員さん。

○緑谷委員

緑谷です。幼稚園も募集の時期に入りまして、今年はコロナの影響もだんだん出始めて、就園児数が大分減るだろうと言っていたら、本当にすごく減っております。市川市内でも、もう今後の存続を諦めて募集を停止した園が出ていますし、江戸川、葛飾、墨田とか、東京の東サイドでも出ています。市川市内でも、当然その少子化であったり人口減少というところは避けられないところだと思うのですが、今年の私立の状況がまとまりましたらもちろん報告はしますが、公立幼稚園の今年の募集の状況というのをぜひ伺えればと思っております。毎回お話しているように、公立の幼稚園には公立幼稚園の良さがあるって私立には私立の良さがあるって、保育園には保育園の良さがあるってというところなので、減ったら潰せとかそんなことを思っているわけでは全くありません。ただ、人数が減ってくれば、適材適所で職員の有効活用であったり場所の有効活用、特に特別支援の問題であったりとか、そういうところへの拡充というのは従来お伝えしているとおりで全く意見は変わっておりません。ぜひ、園児数等の状況を聞きながら、ご検討いただきたいと思っております。ぜひ、今年の公立幼稚園の応募状況についてお聞かせいただければと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○高尾会長

事務局の方からお願いします。

○若菜こども施設入園課長

こども施設入園課でございます。ただ今の、今年度の公立の募集状況ということですがけれども、ちょうど今募集を行っております、10月の24日から1週間、募集期間を設けさせていただいております。現在のところ、昨日までの時点で、60人のお子さんから申請を受け付けている状況でございます。以上です。

○高尾会長

緑谷さん、何かありますか。

○緑谷委員

そちらは前年比でどういう感触を持ってらっしゃるのでしょうか。

○高尾会長

事務局お願いします。

○若菜こども施設入園課長

こども施設入園課でございます。先ほど委員からお話ございましたとおり、年々やはり減少傾向をたどっております。そういったところから、例年よりも、募集が少ないのではないかと感じているところでございます。以上です。

○高尾会長

緑谷さん。

○緑谷委員

私立幼稚園との話し合いでは、今後の保護者ニーズをとらえると、純然たる幼稚園の存続が厳しいので、低年齢化と長時間化、預かり保育の拡充、働く世帯への拡充をということとずっと取り組んでおります。公立幼稚園の場合には当然そちらが対応できませんので、人数が減ってくれば職員の方を、ぜひ、経験の厚いところで特別支援等々への拡充をということとお願いをしているところです。もちろん、今後、状況がはっきりしてきたところで、ご検討いただければと思うので単なる意見でございます。あと、もう1点似通った質問があるのですがよろしいですか。

○高尾会長

はいどうぞ。

○緑谷委員

市内で、以前までは、私立幼稚園に小規模保育所を併設して欲しいというニーズがありました。現状でも私立幼稚園に小規模保育所を併設して欲しいというような市民のニーズは存在をしているのでしょうか。

○高尾会長

事務局の方からお願いします。

○長谷川こども施設計画課長

こども施設計画課です。保育施設のニーズは大分充足されてはきているのですが、それでも、まだ申請者が増加傾向にあります。地域によってはまだ、例えば1歳児などの枠が厳しい所がありますので、地域によってはまだ小規模保育所のニーズはあると考えております。以上です。

○緑谷委員

少子化が約10年前倒しをされたというデータが国でも出ておりました。新しく作ると、もう数年でおそらく不採算になってくるのではないかと感じている事業者が多いと思います。例えば、人数が少ないのでしたら、行徳のようにバスを回して、あれは遠隔地に送るためのものなのでしょうけれども、そういうものをされてはどうなのかと、余計なことですけど、考えているところもございます。先週、子ども子育て会議の話で委員の方から聞きました。まだ建物のニーズを市川市内でお持ちだということ聞いて、早速、私立幼稚園の方にも市川市さんの方でこういうお話があるから、やれそうなところにお声掛けをしたところです。現状のところはちょっといらっしゃらないようで、そのうちいけばご紹介を思っております。ただ、幼稚園、保育園の職員がもう取り合いで、どんどん時給を上げて人に来ないというのは、公立さんも感じているところだと思いますが、もちろん私立も同じです。職員の流動性がすごく高くなっていて、転職希望者のお話を伺っていると、人手不足で環境がすごく悪化をしているところが多いようです。皆さんすごく夢と希望を持ちながら日々お子さんに接していらっしゃいますので、先生方にとって環境が良いことは子どもたちへの質の良さに直結すると思いますので、ぜひ、そうした面でのご配慮もお願いをしたいと思います。これは幼稚園団体としてのお願いということになりますけれども、お願いをしたいと思います。ありがとうございました。

○高尾会長

今、ご質問、ご意見がありましたように、少子化はやはり進んでおります。全国的には、去年、2021年は81万人出生しています。今年はおそらく、コロナの影響もありまして、もっと減るだろうと言われていています。そうすると、大体、78万人ぐらいになるだろうという予測があるわけです。団塊の世代、私のころなのですけれども、1年間に270万人の子どもが生まれています。ということは、200万人少ないということになるわけで、これはものすごく影響が出るのだらうと思います。もちろん、市川市は場所がいいですから、交通の便もいいですし、人口は、全体としては増加しているのでしょうけれども、やはり少子化の影響はあるだろうと思われまます。そうすると、地域によって大きな差が出てくる。本八幡駅の周辺などは土地がないですから、なかなか保育所の設置というのも難しいという課題があると思います。もう一つは、先ほどもおっしゃいましたように、保育士不足です。幼稚園教諭、保育士の不足です。これは非常に大きな影響が出てくると思います。保育園、幼稚園教諭を養成していた立場から言いますと、ニーズが減ってきています。必ずしも、今までのように、保育園或いは幼稚園を目指す学生が多いわけではないのです。ですから、全国的な傾向ですけれども、減ってきている、しかし、需要があるわけなので、取り合いになっていくという、非常に難しい状況になってきたということです。かつての介護と同じ状況がやってきているという認識だと思えます。ですから、これからやはり少子化の問題、それから人員、いわゆる保育士の確保の問題というのは、非常に大きな課題ということです。もっと子どもを産んで欲しいと思いますけれども、なかなかそうはいかないというのが現状ですね。

ほかにご意見ありましたらお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、最後に事務局から説明がありましたらお願いしたいと思います。

○町田教育総務課長

様々な貴重なご意見ありがとうございました。本年度の幼児教育振興審議会は、本日のみとなりますが、本日委員の皆様よりいただきました貴重なご意見等を踏まえまして、幼児教育の取組を進めてまいりたいと考えております。事務局からは以上でございます。

○高尾会長

それでは、これもちまして、令和4年度第1回市川市幼児教育振興審議会を終了いたします。どうもありがとうございました。